新潟大学進学説明会に対する評価および参加者の特性

中畝菜穂子（新潟大学）

新潟大学が県外で実施している説明会について，参加者へアンケート調査を実施し，説明会への評価と参加者の特性の分析を行った。説明会で提供される情報が参考になった程度を尋ねたところ，全体的に評価は高かった。参加者は，男子が 41.3%，女子が 58.7%で女子の参加者が多かった。新潟大学への進学希望状況を 1・2 年生と 3 年生に分けて集計したところ，未定と回答した割合が 1・2 年生で約 54%と高く，3 年生でも約 22%が未定と回答した。

1. はじめに

18 歳人口の減少や国立大学の法人化を受け，近年，国立大学においても良質な大学志願者を確保することが重要な課題となっている。そのため，大学構内で開催するオープンキャンパスだけではなく，学外に出向き，進学相談会を実施する大学も増加してきている（e.g. 東京大学 2006）。

新潟大学は，法人化以前の 1999 年度より，志願者の多い隣接県を中心として，進学説明会を開催してきた。説明会の開始時期は，国立大学としては，比較的早かったといえよう。進学説明会は，開始当時の 1999 年度は山形，長野，群馬の 3 県，2000 年度から 2003 年度は富山，福島を加え 5 県，2004 年度はさらに秋田と東京を加え 7 県で開催と，規模を拡大しつつ行われてきている。

本稿では，2005 年度に実施された進学説明会の概要について報告する。そして次に，参加者に対して実施したアンケート調査の結果に基づき，説明会に対する評価や参加者が提供を望む情報の種類，彼らが進路決定時に重視している情報について検討を行う。

2. 進学説明会の概要

2.1 開催場所および参加者数

2005 年度の進学説明会は，10 月初旬から 11 月初旬の休日および祝日を利用し，群馬，山形，富山，長野，秋田，福島の 6 会場で実施された。開催県は，2005 年度の志願者状況を参考にして決定した。また，開催日時の設定にあたっては，各県の主要高等学校の行事

表 1 学外説明会の参加者数（2005 年度）

	参加者数	前年度参加者数	人数増減（対前年）
群馬会場（10/2（日））	97	89	8
山形会場（10/8（土））	114	121	△ 7
富山会場（10/10（月・祝））	71	66	5
長野会場（10/15（土））	47	61	△14
秋田会場（10/23（日））	57	66	△ 9
福島会場（11/3（木・祝））	67	89	△22
計	453	511（東京会場 19 名を含む）	△58

日程等と重ならないよう配慮した。前年度に実施した東京会場での説明会は，参加人数が19名と少なかったため，2005年度は行わなかった。替わりに新潟大学の東京事務所があるキャンパス・イノベーションセンター入居大学の合同大学説明会に参加することとした。

会場毎の参加者数について表1に示す。募集人数は，各会場とも約100名である。前年度と比較すると参加者数は58名減少した。1会場少なくなったことの影響もあるが，長野会場，福島会場での参加者数の減少によるところも大きい。

2.2 提供する情報について

2.2.1 情報の提供方法

進学説明会で提供する情報は，1）大学の概要，2）入試概要，3）就職・進学状況，4）学部紹介となっている。学部紹介と並行して，学部教員が応対する個別相談コーナーも開設された。個別相談コーナーには，前年度の入学試験結果に関する資料や大学の授業のシラバス等を閲覧できるコーナーも設けられた。

大学の概要紹介は学長，副学長，入学センターの協力教員，入試概要については入試課職員，就職・進学状況の説明はキャリアセンター職員が，会場毎に担当する人間を交替しながら行った。学部紹介は，入学センターの専任教員が全ての会場を担当した。個別相談コーナーを担当する学部教員は，各会場に文系から1，理系から1，医歯系から1名の合計3名が参加するように配置した。

2.2.2 情報の提供内容

大学の概要は，新潟大学の理念・目標の紹介から始まり，新しい教育システムである分野・水準表示法および副専攻制度，国際交流や特色ある研究についての説明，キャンパスの風景の紹介等から構成されている。また，県外の高校生を対象とした説明会であることから，新潟市の特徴や交通アクセス方法，大学の寮および大学周辺のアパートの平均家賃の紹介も行った。

入試概要では，参加者に配布する入学者選抜要項を基に，選抜方法や入試日程について説明した。試験の配点や入試で課す科目は，学科や課程によって異なるので，選抜要項の該当ページを紹介し，例を挙げて一覧表の見方について解説した。また，説明会開催県からの志願者数，入学者数の動向に関しても，説明を行った。

就職・進学状況では，新潟大学全体および学部別の就職率や，学部別の主な就職先を紹介した。そして次に，新潟大学の進路支援体制について説明を行った。就職・進学状況は，2004年度の進学説明会から新たに加えられた項目である。

学部紹介は，9学部それぞれの教育理念や目標，学科や課程の特徴を説明するものとなっている。1時間10分の説明時間で，9学部の紹介をするため，1学部あたりの時間は8分弱である。

3. 参加者に対するアンケートの調査結果

3.1 回収率および参加者の属性

アンケートの回収数は363枚，回収率は全体で80.1%であった。会場別では最も低い富山で62.0%，最も高い福島が89.6%だった。

進学説明会の参加者の属性についてみていく。参加者は高校3年生が最も多いが（62.3%），高校1・2年生も26%ほど参加している（表2）。会場別に参加者の学年をみたところ，福島会場で高校1・2年生の参加者の割合が38%と，他会場と比べて多かった。

男女別では女性が56.6%であり，男性より13%ほど多かった（表3）。対象を高校生に限定して，男女別の割合を求めると，男子が41.3%，女子が58.7%となった。女子の方が男子より，大学に関する情報を収集しようという意欲が高いものと思われる。

表 2 参加者の学年

	人数	%
1年	31	8.5
2年	65	17.9
3年	226	62.3
教員	27	7.4
保護者	14	3.9

表 3 参加者の性別

	人数	%
男性	154	43.4
女性	201	56.6

3.2 提供される情報に対する評価

説明会で提供される情報について，参考になった程度を「1. 大いに参考になった～5. 全く参考にならなかった」の5段階で尋ねた。尋ねた項目は，「大学の概要について」，「入学試験の概要について」，「就職・進学状況について」，「各学部の特色等の紹介について」，「個別相談コーナーについて」，「資料閲覧コーナーについて」の6つである。各項目の平均値について表4に示す。なお分析時には，参考になった程度が高い方の数値が大きくなるように数値を逆転した。

個別相談コーナーを除いた項目で平均値が4.0を超える結果となった。参加者は，提供された情報について，かなり参考になったと感じていることが明らかになった。天井効果のため，各項目の差異を検討することは難しいが，最も参考になったとされたのは大学の概要紹介，参考になった程度が最も低かったのが個別相談コーナーであった。

大学の概要は，図や写真を多用し，大学の様子を視覚的に伝えるものになっている。実際に新潟大学を見学することが，地理的に難しい他県の高校生にとっては，写真によるキャンパス風景の紹介などは，情報として有益なものであったため，評価が高かったのではないだろうか。一方，個別相談コーナーは，自分が希望する学部の教員が説明会に参加しているとは限らないので，他の項目と比較すると，参考になった程度が相対的に低かったのかもしれない。なお，回答者数が学部紹介以降で減少しているのは，学部紹介と並行して個別相談および資料閲覧コーナーが開設されており，それらをどのように利用するかは参加者に任されていたためである。

次に学年別の各項目の評価について示す（図1）。ほとんどの項目で1・2年生と3年生の参加者間で評価に差は見られなかった。しかし，個別相談に対する評価は，3年生と比較すると1・2年生の方がやや低いという結果になっている。1・2年生は，3年生と比べると，進路意識がそれほど明確になっておらず，個別相談の機会を有効に利用することができないのかもしれない。

3.3 新潟大学への進学希望状況

新潟大学への進学を希望しているかどうかについて尋ねた。図2に学年別の進学希望状況について示す。進学を希望していないと回答した参加者は，ほとんどいなかった。回答

表 4 提供された情報が参考になった程度（5段階評定）

	平均値	標準偏差	人数
大学概要	4.48	0.64	355
入試概要	4.36	0.71	356
就職・進学状況	4.41	0.69	351
学部紹介	4.28	0.79	294
個別相談コーナー	3.97	0.89	243
資料閲覧コーナー	4.18	0.84	272

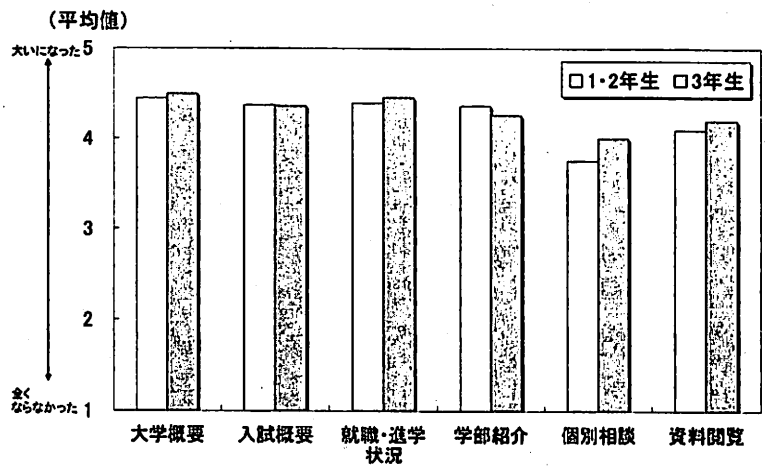

図1 提供された情報が参考になった程度（学年別）

者が新潟大学の説明会の参加者であることを考えれば当然の結果といえる。

進学を希望しているか，未定であるかについては，学年によって回答が分かれた。3年生は約75%が新潟大学を希望していると回答したが，1・2年生では42%ほどにとどまった。これは，新潟大学への進学意思未定の者が1・2年生で約54%と高く，また3年生でも約22%が未定であることを示す。志願者数を増やすという観点から考えると，進学希望が未定のまま，進学説明会に参加している高校1・2年生および3年生に，適切な情報提供をすることによって，新潟大学に対する興味や関心を高めてもらうことが重要になってくるであろう。

進学を希望していると回答した人に，何学部を志望しているのかを複数回答可の形で尋ねた。なお，医学部医学科と保健学科，歯学部歯学科と口腔生命福祉学科は学科単位で志望状況を質問した。

他学部と比べて，医学科，歯学科の志望者数は少なかった。医学科，歯学科といった医歯系の学科は，全国的に競争的な選抜状況にある学科となっている。そのため，これらの学科を希望する受験生は，大学自体への関心や地理的要因等によってではなく，全国の医学部，歯学部を全て視野に入れ，自分の学力レベルに合っているかどうかを優先させて，受験する大学を決定する傾向にある。進学説明会参加者に上記学科の志望者が少なかったのは，このような傾向の影響によるものと考えられる。

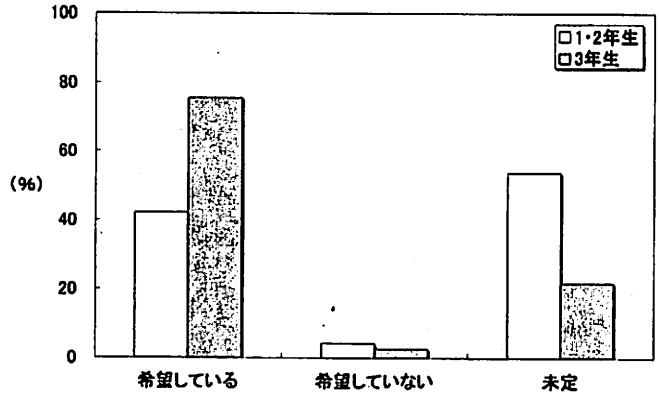

図2 新潟大学への進学希望状況（学年別）

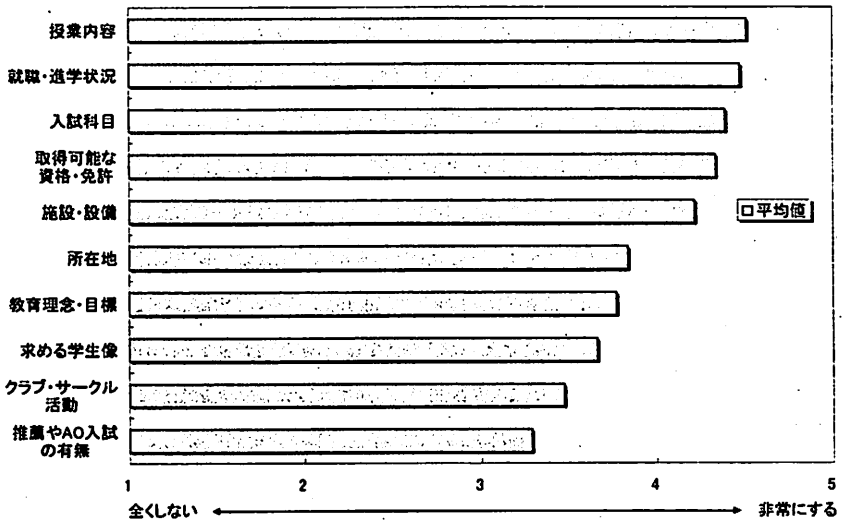

図 3 進学を決定する時に情報を重視する程度

3.4 進路決定時に重視する情報

進路を決定する時，どのような情報を重視して決定しているかについて，10 項目の情報を挙げ，各項目を重視する程度について，「1. 非常に重視する～5. 全く重視しない」の 5 段階で尋ねた。結果を図 3 に示す。なお，分析時には数値の逆転を行った。平均値が 4.0 を超え，重視している程度の高かった情報は，「大学の授業内容に関する情報」，「卒業後の就職・進学状況に関する情報」，「入試科目（科目数や科目名）に関する情報」，「取得可能な資格・免許に関する情報」，「大学の施設・設備に関する情報」の 5 項目であった。

入試科目に関する情報を重視する程度が高かった一方，推薦や AO 入試の有無に関する情報については，重視する程度は最も低かった。この結果は，推薦や AO 入試による選抜が増加してきているとはいえ，国立大学を志望する高校生の間では，これらの選抜のみに焦点をしぼって大学受験に臨む者は，あまり多くはないことを示しているものといえよう。また「大学が求める学生像（アドミッション・ポリシー）に関する情報」についても重視する程度は，あまり高くなかった。

この結果が新潟大学の進学説明会の参加者に特徴的なものなのか検討するため，鴫野・鈴木（2006）が全国の大学進学率 40%以上の高等学校を対象に行った調査結果と比較した。彼らは情報として 20 項目を挙げて重視する程度を尋ねている。今回のアンケートで用いた 10 項目のうち，「卒業後の就職・進学状況に関する情報」，「入試科目（科目数や科目名）に関する情報」，「取得可能な資格・免許に関する情報」，「大学の施設・設備に関する情報」，「大学の教育理念・教育目標に関する情報」，「クラブ・サークル活動に関する情報」，「推薦や AO 入試の有無に関する情報」の 7 項目が，彼らの調査と一致する項目である。同一形式による質問ではないため，正確な比較はできないが，上記 7 項目を重視する程度は，「大学の教育理念・教育目標に関する情報」，「クラブ・サークル活動に関する情報」の平均値の順位が，鴫野・鈴木（2006）ではクラブ・サークル活動の方が上位なのに対し，今回の調査ではそれが逆になっているという以外は，項目の並び順については同じ結果になった。

4. まとめと今後に向けて

(1) 新潟大学の進学説明会を 10 月初旬から

11月初旬にかけて，群馬，山形，富山，長野，秋田，福島の6会場で実施した。参加者数は合計で453名であった。これは前年度と比較すると，1会場少なくなった影響もあり，58名の減となっている。参加者の学年は高校3年生が62.3%で最も多かったが，1・2年生も26%ほど参加していた。

(2) 進学説明会では，1) 大学の概要，2) 入試情報，3) 就職・進学状況，4) 学部紹介といった情報が提供された。なお，学部紹介の時間と並行して，学部教員による個別相談コーナーと，前年度の入試結果や授業のシラバス等を閲覧できるコーナーが開設された。各項目が参考になった程度を参加者に尋ねたところ，全体的に評価は高かった。その中でも，最も参考になった程度が高かったのは大学の概要紹介，最も低かったのは個別相談であった。

(3) 新潟大学への進学希望状況を1・2年生と3年生に分けて集計したところ，3年生では約75%が新潟大学を希望していると回答したが，1・2年生では42%ほどにとどまった。未定と回答した割合は1・2年生で約54%と高く，また3年生でも約22%が未定と回答した。志願者数を増やすという観点から考えると，進学希望が未定の参加者に，説明会に参加することによって，新潟大学に対する興味や関心を高めてもらうように，彼らに向けて適切な情報提供をすることが重要であろう。

(4) 進路を決定する時にどのような情報を重視して決定しているのか，10項目を挙げて尋ねた。重視をしている程度が高かったのは，「大学の授業内容に関する情報」，「卒業後の就職・進学状況に関する情報」，「入試科目（科目数や科目名）に関する情報」，「取得可能な資格・免許に関する情報」，「大学の施設・設備に関する情報」の5項目であった。重視する程度が最も低かったのは，「推薦やAO入試の有無に関する情報」だった。

最後に今後に向けての課題を述べる。新潟大学の場合，比較的早い時期から，進学説明会という取り組みを行ってきた。しかしこれまで，その効果については十分に検討されてきたとはいいがたい。今回，新たに分かったこととして，進学説明会に参加している学生の中にも新潟大学を進学先として希望するかどうか未定の者が相当数含まれていたことが挙げられる。試みに，進学説明会で提供された情報が参考になった程度を，進学希望者と未定者で比較してみたところ，全ての項目において，未定者の方が低いという結果になった。進路が未定だから提供された情報に対する評価が低いのか，それとも未定者が求める情報提供をしていないから評価が低いのかといった因果の方向性に関しては，このデータからは分からない。しかし，個別大学の説明会であっても，参加者が必ずしも当該大学への進学を希望しているわけではないこと，また，進学希望者と比較した場合，未定者は，提供された情報に対して満足度が高くないことは，今後，進学説明会を改善していく上で，何らかの手がかりを与えてくれるものと思われる。

文献

鳴野英彦・鈴木規夫，2006，「高等学校から見たアドミッション・ポリシー」鳴野英彦編『高等学校における進学情報の利活用とアドミッション・ポリシー――大学における学生の入学受入方策に関する総合的調査研究Ⅱ―』独立行政法人大学入試センター研究開発部：49-69.

東京大学，2006，「主要大学説明会 2006」『http://www.u-tokyo.ac.jp/stu03/e01_07_02_j.html』(2006年9月13日閲覧).